
付録 E

エンサークルド・フラックス マルチモード ファイバ (MMEF)試験

【 Version 7.0 】



本製品の使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。



本取扱説明書は英文取扱説明書の一部邦文訳ですが、全てにおいて英文取扱説明書の補助手段としてご使用ください。



危険ですのでアダプタポートを直接のぞかないで下さい。
レーザー光が発信されますので、目に損傷を与える恐れがあります。

目次

第 1 章	概要	E-2
➤	構成品	E-2
第 2 章	テストの設定と準備	E-3
➤	初期設定	E-3
第 3 章	オートテスト (リモートユニット)	E-5
➤	1 ジャンパ法	E-5
•	リファレンス設定	E-5
•	リファレンス設定確認	E-7
•	オートテスト	E-8
➤	2 ジャンパ法	E-9
•	リファレンス設定	E-9
•	オートテスト	E-11
➤	3 ジャンパ法	E-12
•	リファレンス設定	E-12
•	オートテスト	E-14
第 4 章	オートテスト (リモートループバック)	E-15
➤	1 ジャンパ法	E-15
•	リファレンス設定	E-15
•	オートテスト	E-17
➤	2 ジャンパ法	E-19
•	リファレンス設定	E-19
•	オートテスト	E-21
➤	3 ジャンパ法	E-22
•	リファレンス設定	E-22
•	オートテスト	E-24

< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

概要 - 構成品

第 1 章 概要

構成品

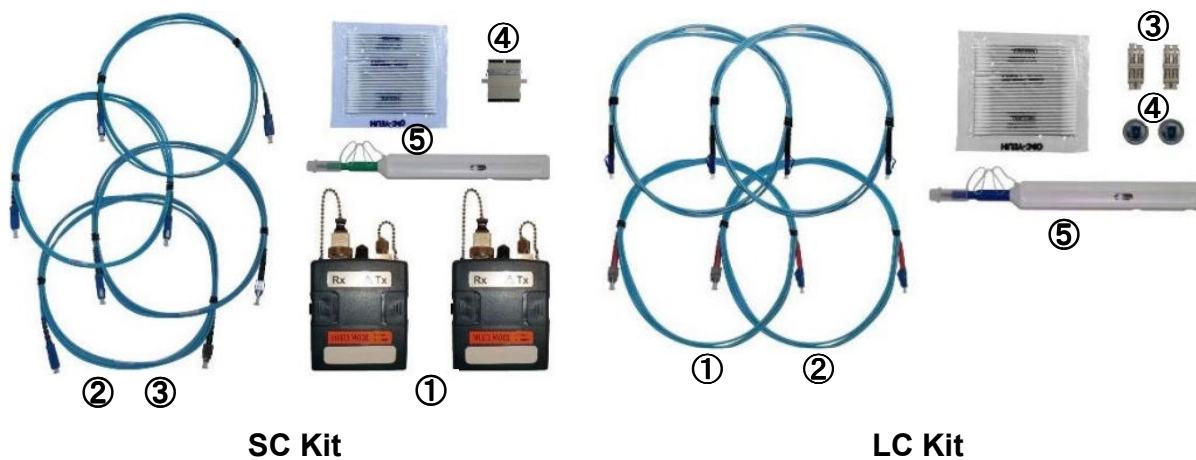
エンサークルド・フラックスの構成品を以下に示します。

■ SC Kit (WX_AD_MMEF_KIT)

- ① MMEF アダプタ × 2 (WX_AD_MMEF)
- ② FC-SC リファレンスコード × 2 (WX_AC_MMEF_CORD_FCSC)
- ③ SC-SC リファレンスコード × 2 (WX_AC_MMEF_CORD_SCSC)
- ④ SC-SC コネクタ × 1 (WX_AC_MMEF_CONNECTOR_SCSC)
- ⑤ SC コネクタクリーニングキット × 1 (WX_AC_CKIT_SC)

■ LC Kit (WX_AC_MMEF_CORD_KIT_LC)

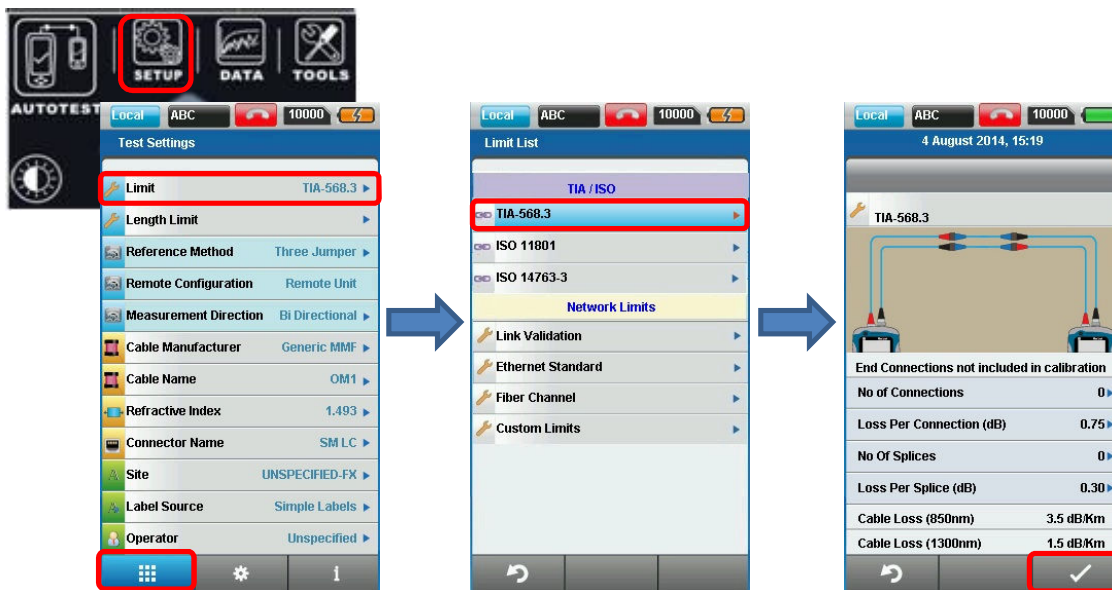
- ① FC-LC リファレンスコード × 2 (WX_AC_MMEF_CORD_FCLC)
- ② LC-LC リファレンスコード × 2 (WX_AC_MMEF_CORD_LCLC)
- ③ LC-LC コネクタ × 2 (WX_AC_MMEF_CONNECTOR_LC_LC)
- ④ LC アダプタ × 2 (WX_AC_MMEF_ADAPTER_LC)
- ⑤ LC コネクタクリーニングキット × 1 (WX_AC_CKIT_LC)



第 2 章 テストの設定と準備

初期設定

- (1) WX4500 のローカルユニットとリモートユニットに MMEF アダプタを実装します。
- (2) LC コネクタケーブルの試験を実施する場合は、RX 側の SC コネクタを LC コネクタに交換します。
- (3) WX4500 の電源を ON にします。ファイバ試験モードになっていることを確認してください。
- (4) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Limit』 を選択して、テスト規格を設定します。



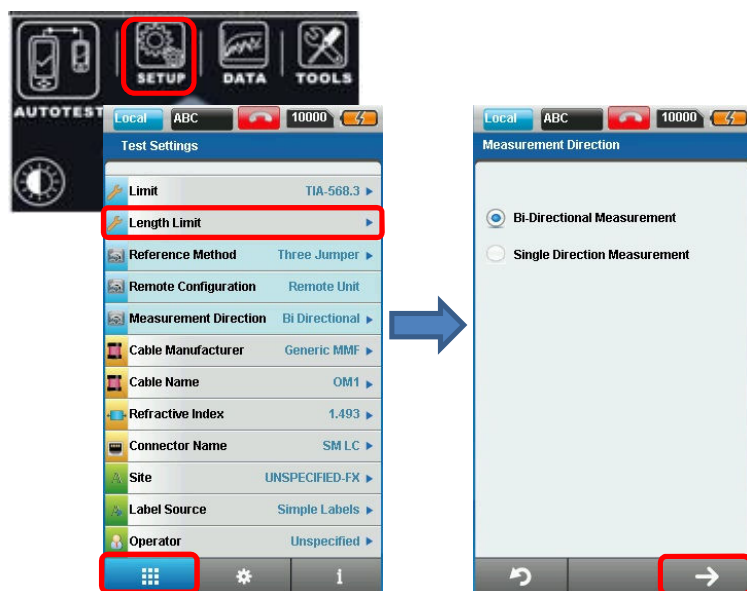
- (5) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Length Limit』 を選択して、ファイバの長さを設定します。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

テストの設定と準備 - 初期設定

- (6) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Measurement Directions』 を選択して、測定方向を一方もしくは双方向から選択して設定します。

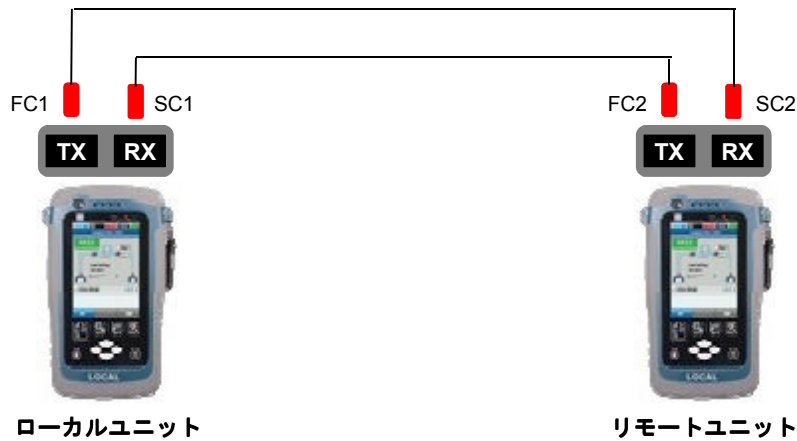


第 3 章 オートテスト (リモートユニット)

1 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



- (2) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Reference Method』で『リモートユニット』の『1 ジャンパ』を選択します。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートユニット) - 1 ジャンパ法

- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。

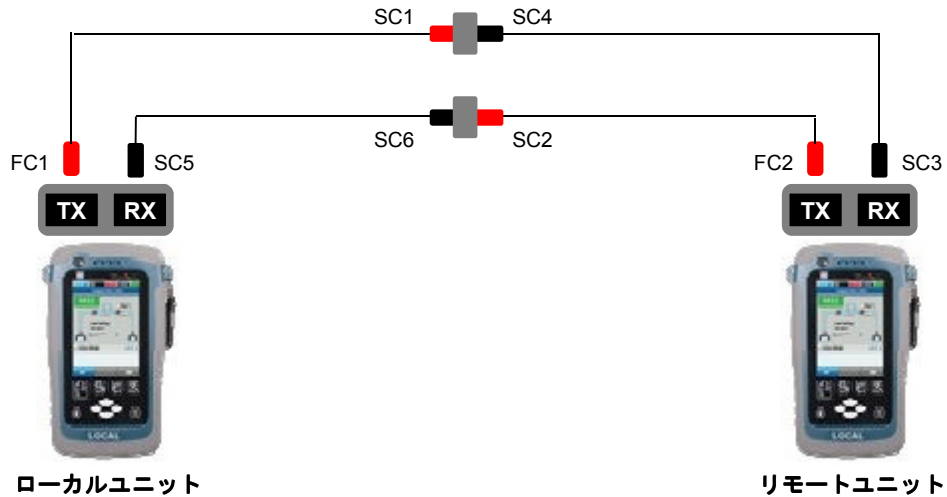


- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

リファレンス設定確認

以下の接続方法でリファレンス設定の確認ができます。

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します。



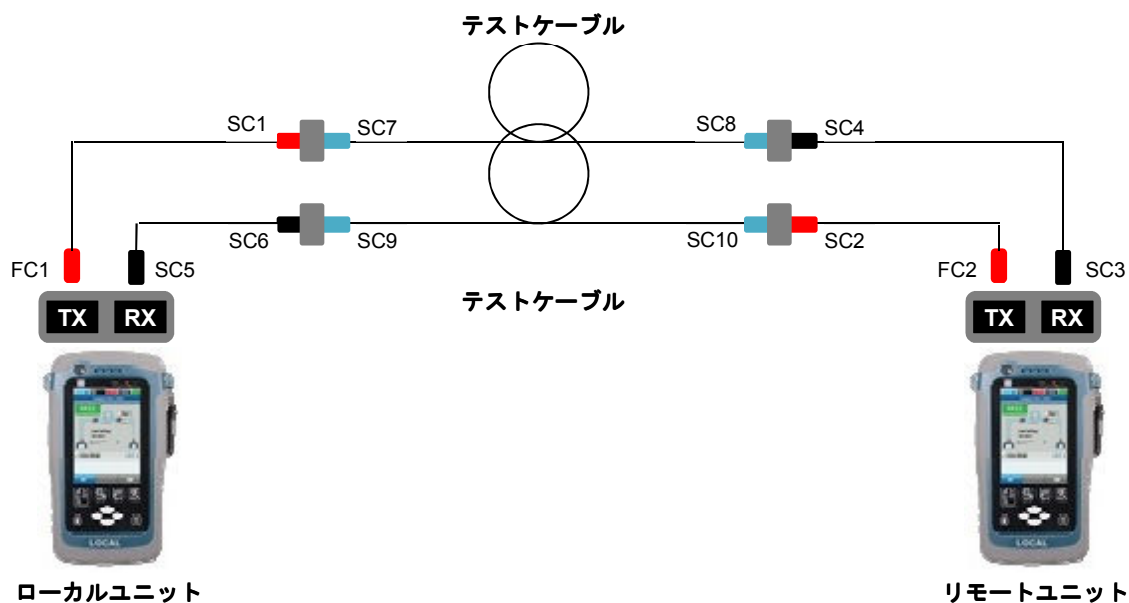
- (2) 『AUTO TEST』をタッチして、オートテストを開始します。
- (3) ファイバ長が0mで結果が「合格」であることを確認します。

< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

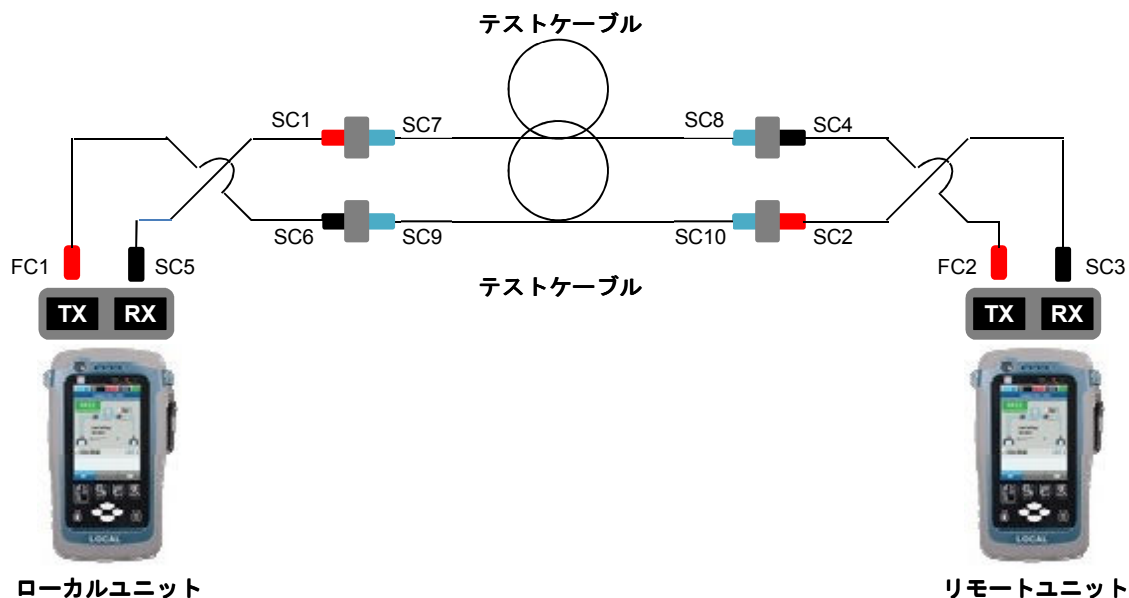
オートテスト (リモートユニット) - 1 ジャンパ法

オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃してください。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。

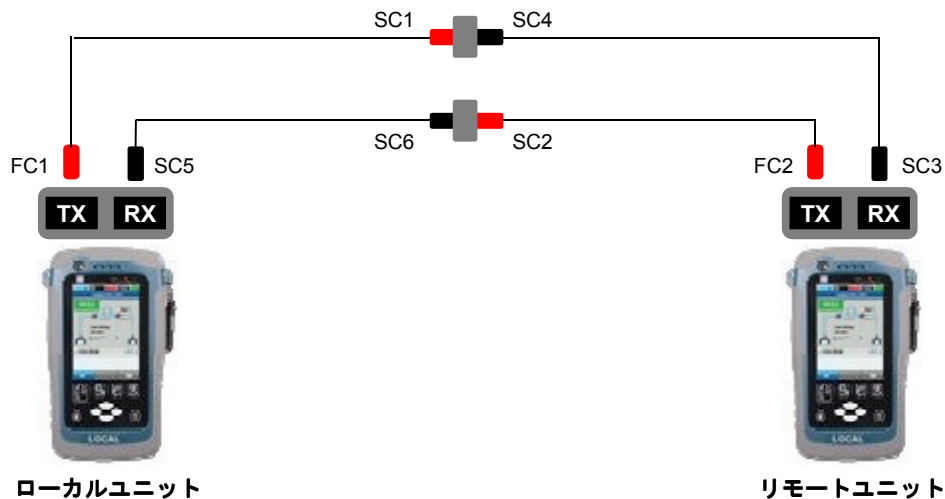


- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。

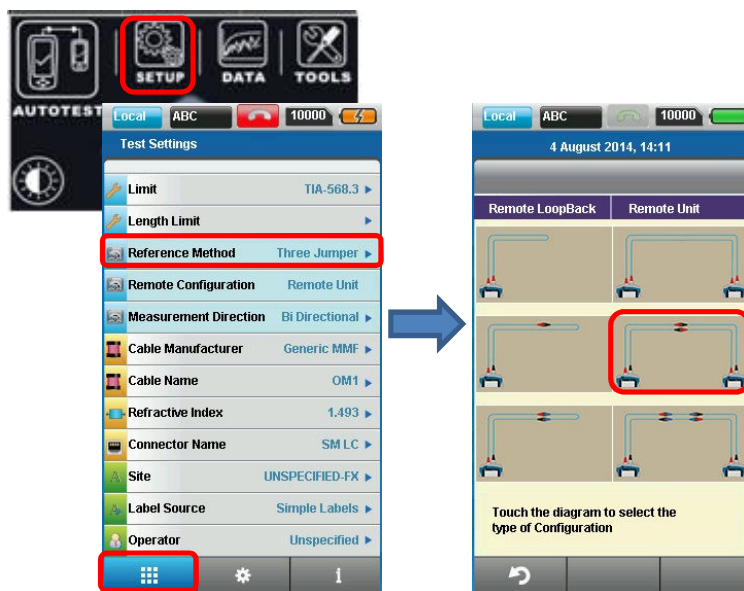
2 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します。
※接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



- (2) 『SETUP』→『Test Setting』→『Reference Method』で『リモートユニット』の『2 ジャンパ』を選択します。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートユニット) - 2 ジャンパ法

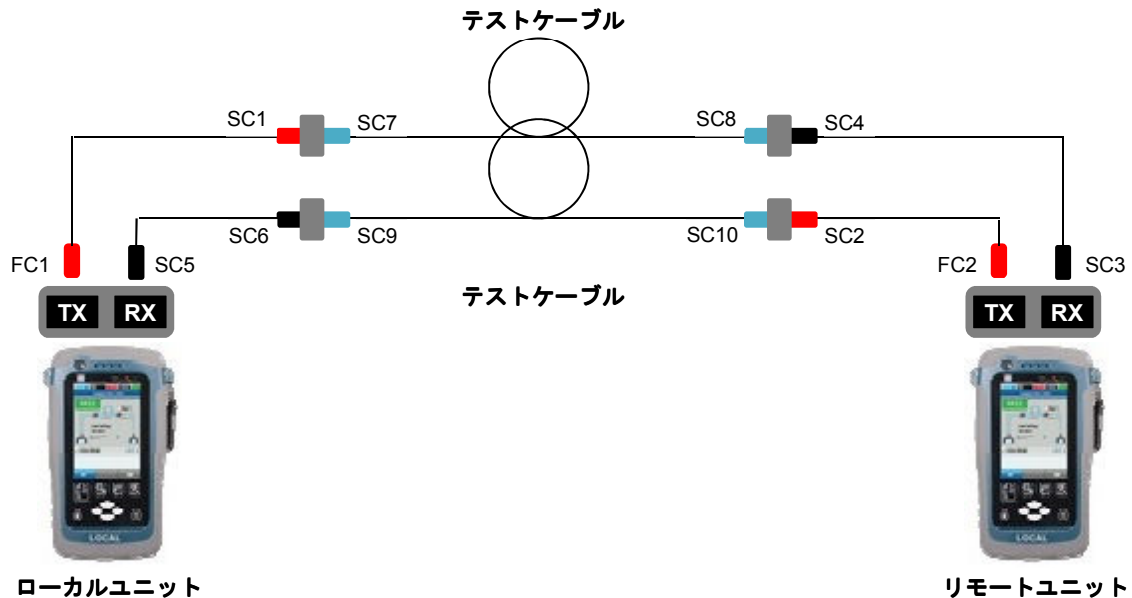
- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。



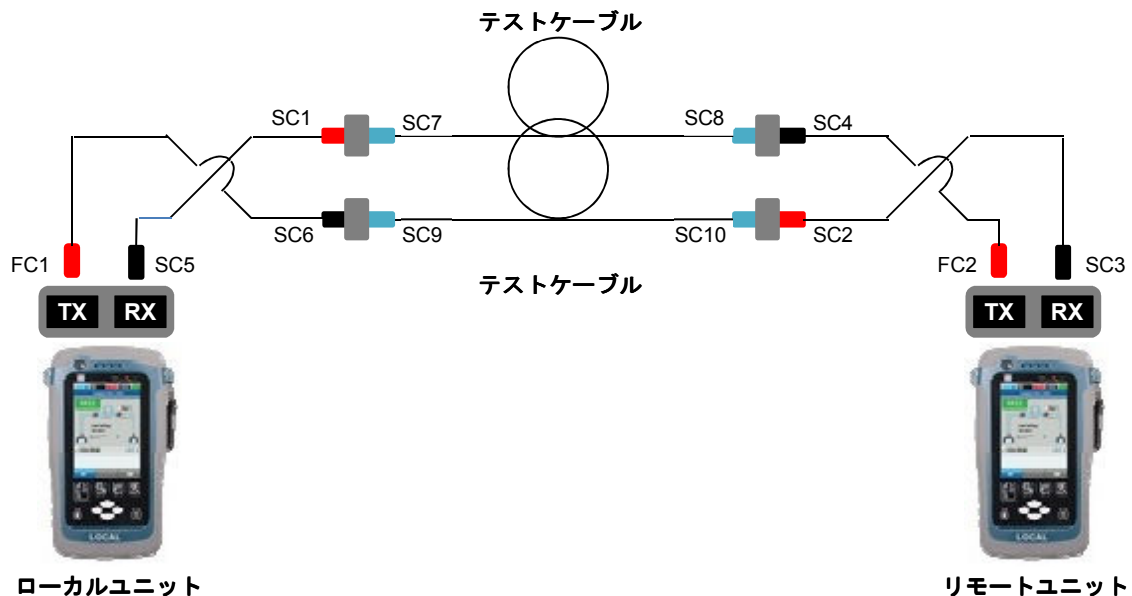
- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します
 ※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。



- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。

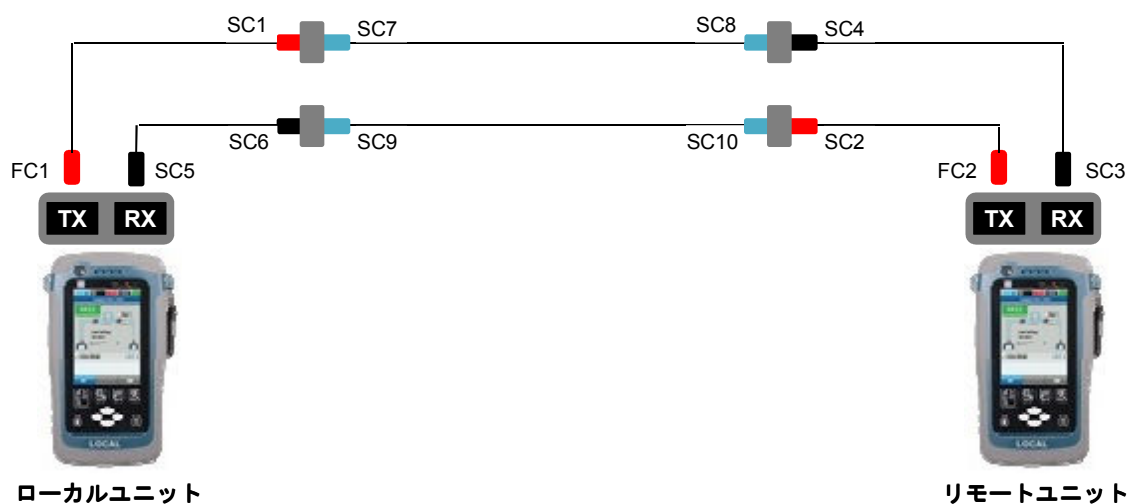
< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートユニット) - 3 ジャンパ法

3 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



- (2) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Reference Method』 で 『リモートユニット』 の 『3 ジャンパ』 を選択します。



- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。



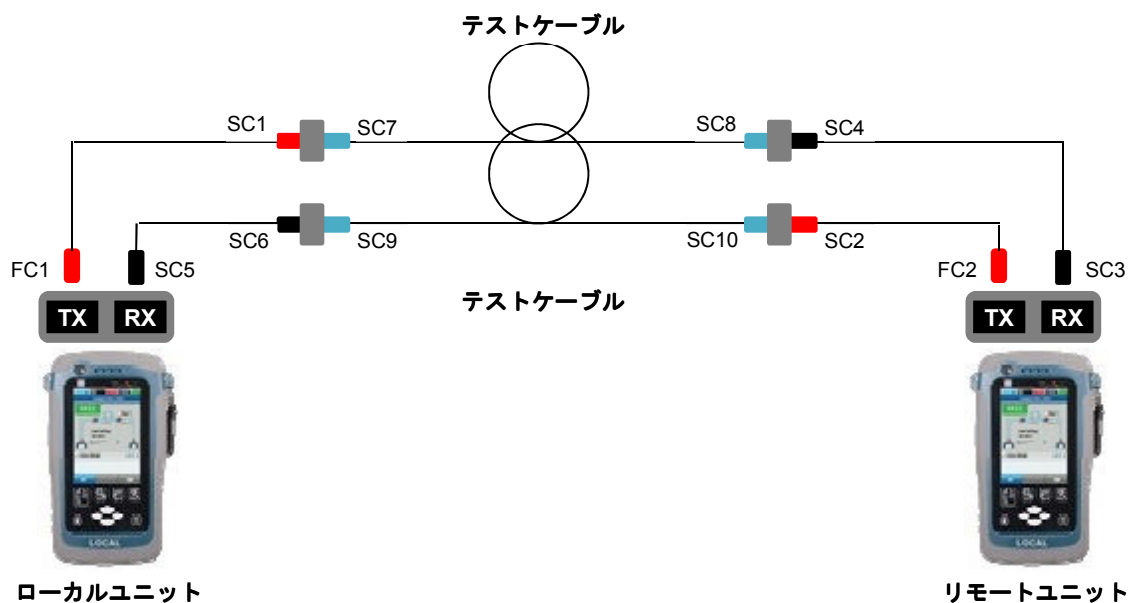
- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

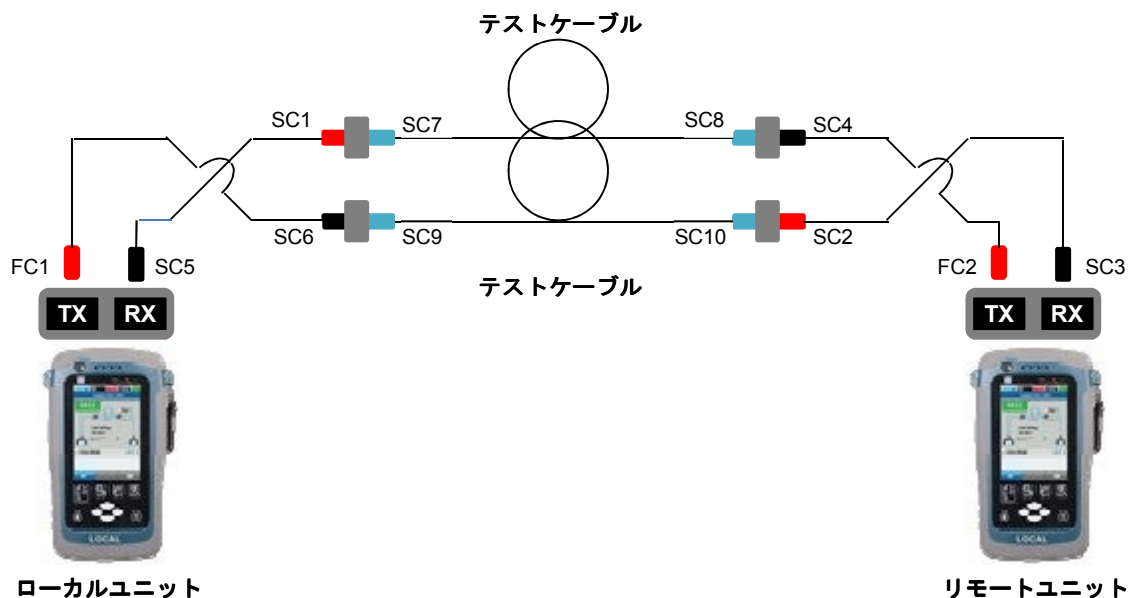
オートテスト (リモートユニット) - 3 ジャンパ法

オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットとリモートユニットを接続します
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。



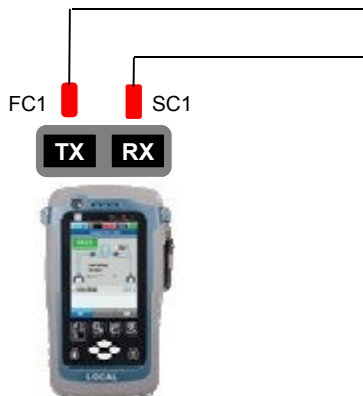
- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。

第 4 章 オートテスト (リモートループバック)

1 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルのみを使用して接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



ローカルユニット

- (2) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Reference Method』 で『リモートループバック』の『1 ジャンパ』を選択します。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートループバック) - 1 ジャンパ法

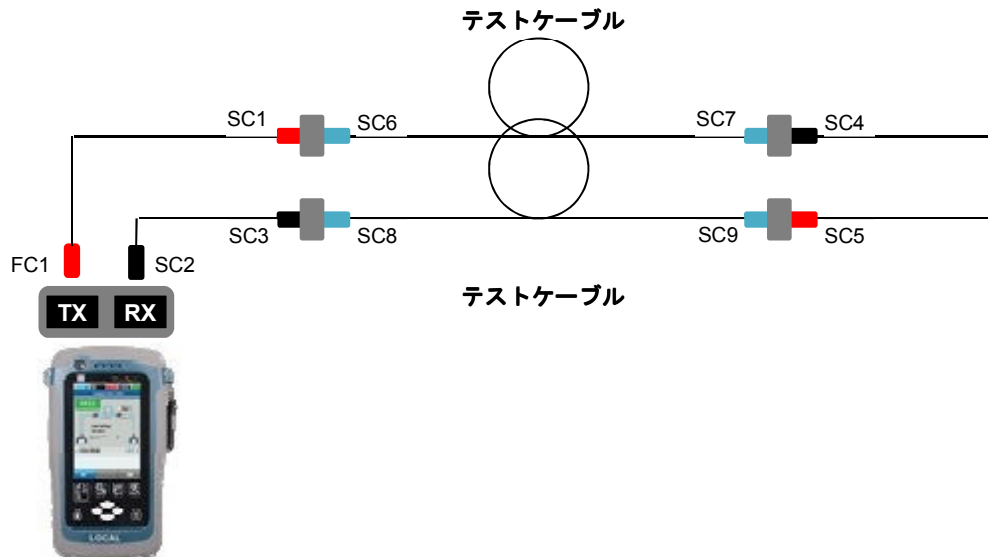
- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。



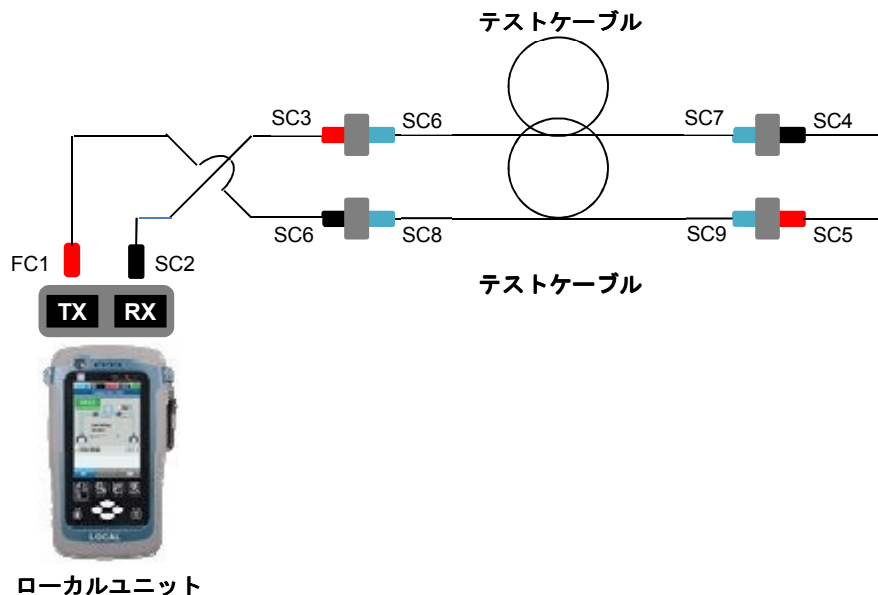
- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットのみを使用して接続します
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



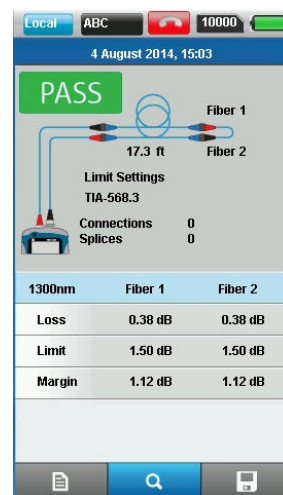
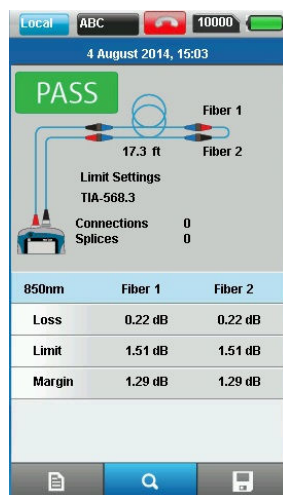
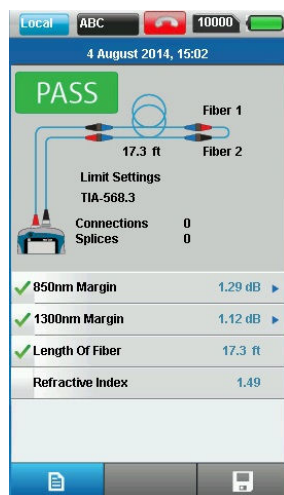
- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートループバック) - 1 ジャンパ法

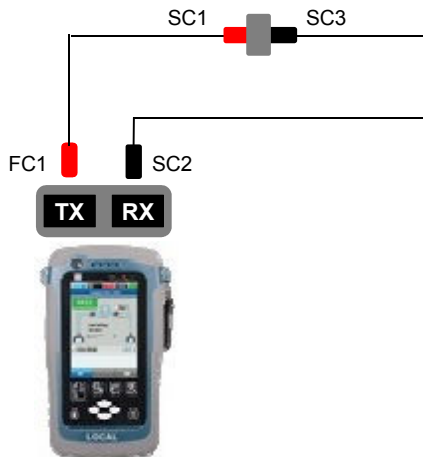
- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。



2 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルのみを使用して接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



ローカルユニット

- (2) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Reference Method』 で『リモートループバック』の『2 ジャンパ』を選択します。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートループバック) - 2 ジャンパ法

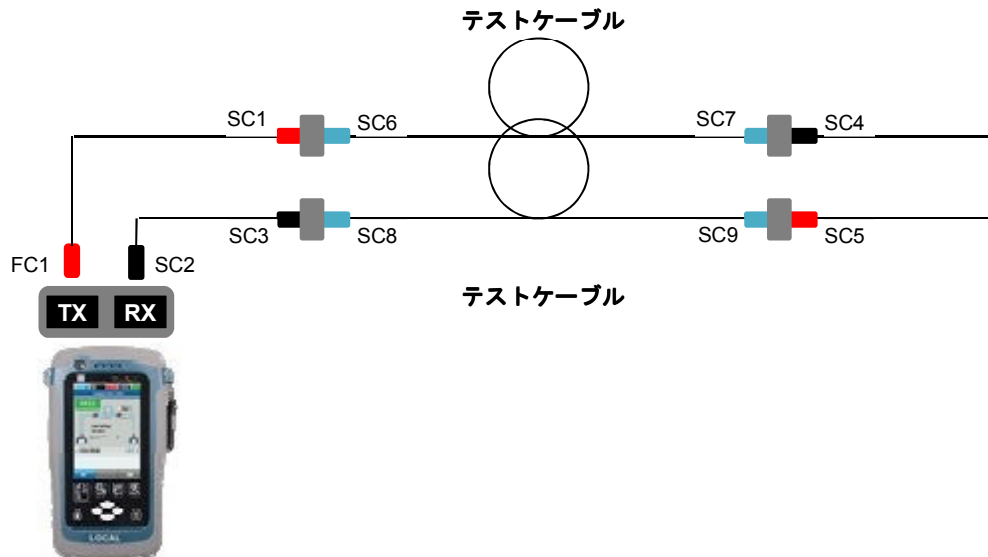
- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。



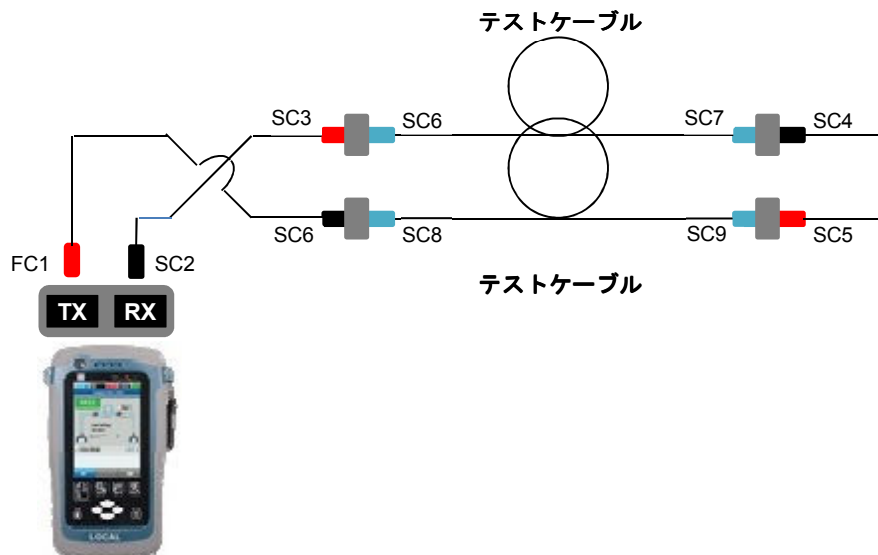
- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットのみを使用して接続します
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。



- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。

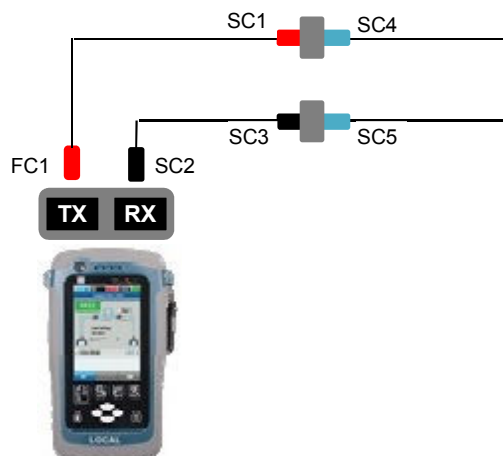
< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートループバック) - 3 ジャンパ法

3 ジャンパ法

リファレンス設定

- (1) 以下の通りにローカルのみを使用して接続します。
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。



ローカルユニット

- (2) 『SETUP』 → 『Test Setting』 → 『Reference Method』 で『リモートループバック』の『3 ジャンパ』を選択します。



- (3) 『TOOLS』 → 『Set Reference』 でリファレンス設定を開始します。



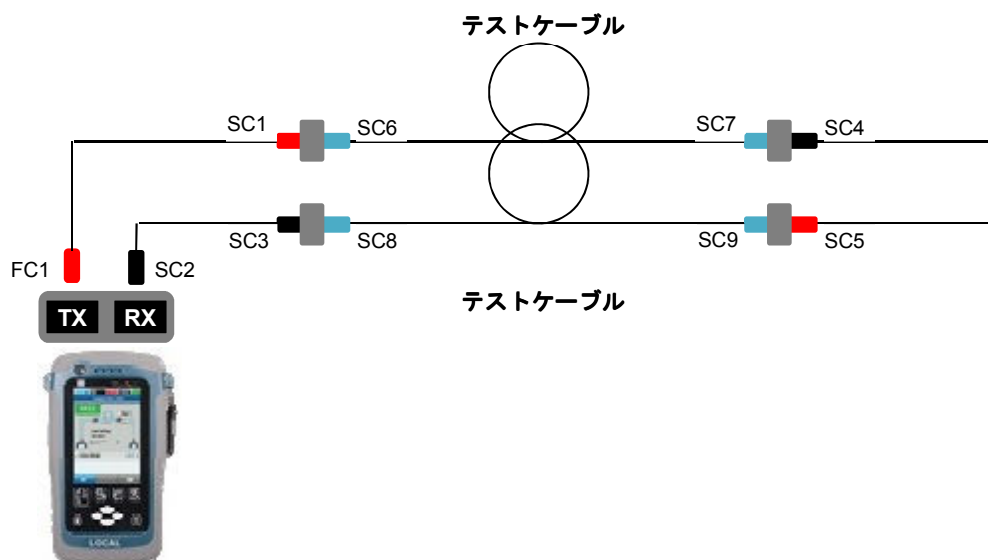
- (4) ロス値が 0.15dB 以下なら合格です。0.15 以下にならない場合は、コネクタの清掃または、ファイバの交換を実施して再度、リファレンス設定を実行してください。

< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >

オートテスト (リモートループバック) - 3 ジャンパ法

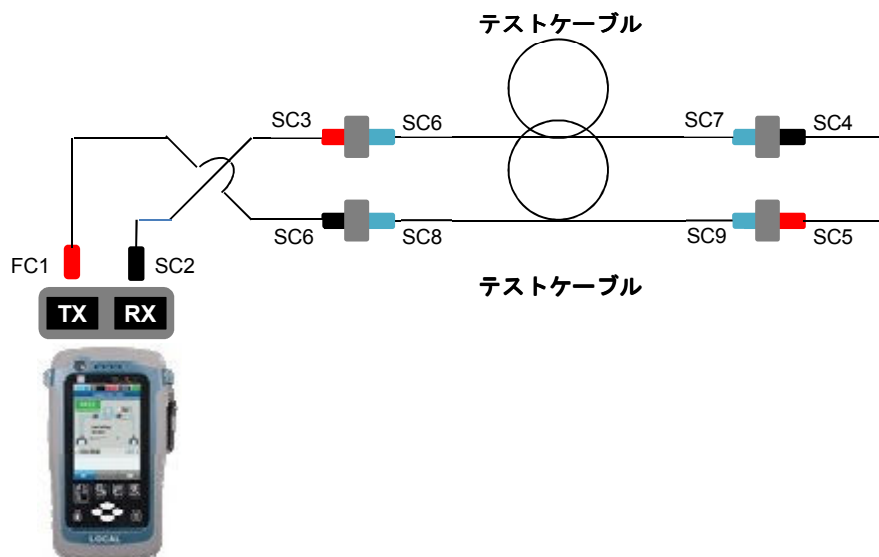
オートテスト

- (1) 以下の通りにローカルユニットのみを使用して接続します
※ 接続前にファイバは、クリーニングキットで清掃して下さい。
- (2) 接続後、『AUTOTEST』をタッチします。テストが開始します。



ローカルユニット

- (3) 測定方向が「双方向」の場合は、ファイバの接続を以下の通りに変更して、『ステップ 2』をタッチします。



ローカルユニット

- (4) 試験終了後、850nm マージンもしくは 1310nm マージンの Loss, Limit, Margin を確認するために波長を選択してください。



< 付録 E : MMEF ファイバ試験 >
オートテスト (リモートループバック) - 3 ジャンパ法

付録 E : MMEF ファイバ試験